

2020 春季生活闘争 「ふくしま労働シンポジウム」 2/6(木)

「経済の自立的成長」、「社会の持続性」を実現するために、

分配構造の転換につなげる賃金上昇を目指す！！

連合福島は、この程2月6日(木)13時から「2020 春季生活闘争ふくしま労働シンポジウム」を開催した。冒頭、今野 泰 連合福島会長からは『日本は少子高齢化・人口減少、経済の停滞等で将来不安を一層増幅し、賃金はバブル崩壊後の企業における成果主義、非正規社員の増加により低下し、その一方で、企業の内部留保は過去最高を記録している。2020 春季生活闘争では、従来の底上げ・底支え・格差是正の概念を更に掘り下げ、分配構造の転換につなげる賃金上昇を目指す。また、景気の停滞・社会保障への不安から消費が低迷する中、個人消費拡大による内需拡大をしっかりと



主催者挨拶 今野 泰 連合福島会長

り主張し「経済の自立的成長」「社会の持続性」を目指す。さらに、昨年の台風被害を教訓とし、連合福島としては災害リスクの確認、休業・休職時の保障も求めていく。経団連から提起された日本型雇用システムの見直しは、雇用のセーフティネット等の議論もないまま唐突に示された。これまで競争を基本とする資本主義により豊かさを享受された反面、格差・貧困・孤独も生み出され、このような問題の解決もないまま突き進むことは疑問がある。さらに雇用の流動化は、地方創生進める中、都市部の一極集中を助長するものであり、労働組合として対峙していかなければならない。春闘はすべての働く者のため、日本全体と向き合うためであることを皆さんと確認したい』と挨拶した。



日本銀行福島支店
中山 興 支店長

そして、第一部の講演では、日本銀行福島支店・中山 興支店長より「日本経済と福島経済の現状および先行き」と題し講演を頂いた。講演では様々なデータから福島の経済を分析し「一部に弱い動きがみられることに加え、台風19号等の影響が生産を中心に下押ししていることから、回復に向けた動きが足踏み状態にある」とし、復興需要もピークアウトになっているが、震災前と比較するとまだまだ高い水準で推移していると説明があった。

第二部の講演では、福島労働局 雇用環境・均等室 佐藤 央子室長より「パートタイム・有期雇用労働法とパワーハラスメント防止対策について」と題し講演を頂いた。講演



福島労働局雇用環境・均等室
佐藤央子 室長

では今年の4月から施行される「同一労働同一賃金」や同じく6月から施行される「パワーハラスメント防止」に関して確認方法や労使で取り組む課題等の説明を頂いた。

このシンポジウムが労働組合だけに止まらず、多くの労働行政や経営者団体、さらに各級議員の皆さまにも参加を頂いたことに感謝を申し上げます。



講演を熱心に傾聴する参加者の皆さん